

| | | | | | |
|---|--|------|------------------------|------|-----------|
| 科目名 | | | 災害産業保健学特論 | | |
| 科目責任者 | | | 立石 清一郎 (災害産業保健センター 教授) | | |
| 開講時期: | 1年次後期 | 単位数: | 4 単位 | 時間数: | 90分× 30 回 |
| <p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>企業の災害活動のみならず、国民全体の公衆衛生危機事象・健康危機管理として捉え、その過程で発生する対応職員の健康影響について網羅的に評価し改善提案を列挙する。また、それらの提案が事業場に受け受け入れられるように、事前に準備すべき事項について理解し、高いコミュニケーションスキルとリスクコミュニケーションの基本について理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害発生時に労働者の健康影響が発生するメカニズムについて説明することができる 2) 我が国の危機管理体制について説明することができる 3) 健康危機管理における保健所の機能と機器発生時の負担について説明することができる 4) 企業等における災害発生時の健康影響について列挙することができる 5) 災害発生時の物理的健康障害要因についてレビューすることができる 6) 災害発生時の化学的健康障害要因についてレビューすることができる 7) 災害発生時の人間工学的健康障害要因についてレビューすることができる 8) 災害発生時の生物学的健康障害要因についてレビューすることができる 9) 災害発生時の心理社会的健康障害要因についてレビューすることができる 10) 災害時のメンタルヘルス対応についてレビューすることができる 11) 職場環境改善の手法について説明することができる 12) 災害時に活躍する組織 (DMAT、DHEATなど) について説明することができる 13) リスクコミュニケーションについて説明することができる 14) 災害時に規定されている法制度について説明することができる 15) 災害産業保健について他者に説明することができる。 | | | | | |
| ● 評価方法 | 討議50%、発表50%で総合評価する。 | | | | |
| ● 参考文献 | 災害産業保健入門(労働調査会)、災害復興法学(慶應技術大学出版)、災害精神医学ハンドブック(誠信書房)、産業保健マニュアル(南山堂) | | | | |

● 授業スケジュール

| 回 | 項目 | 内容 | 担当教員 |
|-------|----------------------|------------------------|------|
| 1・2 | 災害産業保健総論 | 災害時の労働者の健康障害の発生過程 | 立石 |
| 3・4 | 公衆衛生危機管理・健康危機管理体制の基本 | 災害法、防災基本計画、保健医療福祉調整本部 | 立石 |
| 5・6 | 保健所機能の実際 | 保健所組織・機能、感染症法に基づく対応、 | 立石 |
| 7・8 | 災害産業保健対応事例 | 福島原発支援・人吉球磨地区支援・工場爆発事例 | 立石 |
| 9・10 | 災害時の物理的健康障害要因 | 放射線、暑熱、騒音 | 立石 |
| 11・12 | 災害時の化学的健康障害要因 | 粉塵、化学物質 | 立石 |
| 13・14 | 災害時の人間工学的健康障害要因 | 腰痛、災害外傷 | 立石 |
| 15・16 | 災害時の生物学的健康障害要因 | 結核、麻疹、新型コロナウイルス感染症 | 立石 |
| 17・18 | 災害時の心理社会的健康障害要因 | 心理的負荷、脆弱性 | 立石 |
| 19・20 | 災害時のメンタルヘルス対応Ⅰ | サイコロジカルファーストエイド、 | 立石 |
| 21・22 | 職場環境改善の手法 | 参加型改善、調査票 | 立石 |
| 23・24 | 災害時の支援組織 | DMAT、DPAT、DHEAT、IHEAT | 立石 |
| 25・26 | リスクコミュニケーション | リスク総論、リスクコミュニケーションの手法 | 立石 |
| 27・28 | 災害復興と法制度 | 関連法制度の整理 | 立石 |
| 29・30 | 災害産業保健まとめ | 知識のまとめ | 立石 |